

地域の今と未来をつなぐ教育支援活動コーディネーター等研修

## 「地域資源を活用したキャリア教育推進フォーラム」

令和4年10月28日(金) 会場:青森県総合社会教育センター 大研修室  
受講者数:会場93名 オンライン7名

青森県の未来を担う人財である子どもたちが心豊かでたくましく成長するためには、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たしつつ、教職員、保護者、地域住民が連携・協働し、社会全体で子どもたちを育むことが大切です。そこで、学校と地域住民・企業・NPO・各種団体等をつなぐコーディネーター等のスキルアップ及び人財の拡充を図ることを目的として「地域資源を活用したキャリア教育推進フォーラム」を開催しました。

今年度のフォーラムも、新型コロナウイルス感染症感染防止対策とオンラインの活用を目的として、会場参加とオンライン参加のハイブリッド型研修会とし、あおもりキャリア教育応援企業の表彰式、青森県企画政策部地域活力振興課による情報提供、講演の3部構成で行いました。

講演の講師には、株式会社 教育と探求社 代表取締役社長 宮地 勘司 氏を会場にお迎えし、「変化の激しい時代において、人の育ちに必要なものは何か」と題してご講演いただきました。

## 1 「あおもりキャリア教育応援企業」表彰式

この表彰は、県教育委員会が県内の学校への出前授業やインターンシップ受入等教育支援活動に熱心に取り組んでいる企業・事業所等を表彰することにより、教育支援活動が今まで以上に積極的に行われていくことをめざして平成26年度から始めたものです。

県内外の企業・事業所等から応募のあった中から「あおもりキャリア教育応援企業表彰審査委員会」による審査を行い、今年度は11の企業・事業所の皆様に日頃の活動への感謝の意を表して、表彰しました。

青森県には県内6地区に教育支援プラットフォーム事務局があり、子どもたちのキャリア教育を応援する仕組みがあります。令和4年11月現在で798社の企業・事業所等が「我が社は学校教育サポーター」へ登録していて、「地元で活躍されている企業等の方をゲストティーチャーとしてお招きしたい」、「子どもたちの職場見学やインターンシップの受け入れをしてほしい」という学校等をサポートしてくださっています。



## 【表彰企業・事業所等 11社】

1	グリーン観光産業株式会社	7	有限会社 <sup>にがら</sup> 二唐刃物鍛造所
2	株式会社 <sup>ながき</sup> 永木精機	8	<sup>らくどく</sup> 楽読あおもり弘前スクール
3	エプソンアトミックス株式会社	9	株式会社 ホテルサンルート五所川原
4	弘前航空電子 株式会社	10	公益社団法人 五所川原青年会議所
5	ヤマモト食品株式会社	11	津軽カタリスト
6	株式会社 東京堂		

## 2 情報提供「若者から『選ばれる青森』をめざして

### ～青森県の課題と『YES! AOMORI』～

発表 県企画政策部 地域活力振興課 工藤 倫子 氏



#### (1) 青森県の高校生の現状・課題

- ・青森県の高校生の県内就職率は58.7%(4年連続で全国最下位)。
- ・成長過程で育まれていた県外志向がある。(県外で働いてみたい等)
- ・若者の進路選択には保護者の意向が強く影響している。

#### (2) 青森県の取組

- ・若者への直接的なアプローチ(「青森のしごとや暮らしの魅力を伝える冊子」を活用したプロモーション活動など情報発信、県内就職の促進、円滑にUターンできる支援)
- ・保護者・教員・企業など大人へのアプローチ(県内定着プロモーション、県内企業見学会、奨学金返還を支援、デジタル化のサポート)
- ・「青森県の魅力」「青森県の暮らしやすさ・働きやすさ」などを知ってもらうことで、生まれ育った青森に自信と誇りをもってほしい。

#### (3) アンケートの声

- ・分析・現状の把握がしっかりと見える化されていて、よく分かりました。この情報紙を活用して、1つでも多くの学校に出前授業してほしいです。青森の良さを積極的に子どもたちに伝えたいと思いました。

## 3 講演「変化の激しい時代において、人の育ちに必要なものは何か」

講師 株式会社教育と探求社 代表取締役社長 宮地 勘司 氏



#### (1) 探究学習はなぜ必要なのか。

- ・IQだけが知性ではない。マルチプルインテリジェンス「個性を生かす多重知能の理論」。人はだれもが特別な能力を持っている。
- ・変化を恐れる管理型の教育が生み出したもの(イノベーションなき企業・チャレンジしないビジネスマン・主体性なき市民)がある。これまでの教育を見直していくことがポイントとなる。

#### (2) 生徒が主体的・創造的に学ぶ「クエストエデュケーション」とは何か。

- ・クエスト=探究すること。クエストエデュケーション=現実社会と教室をつなぐ学習プログラムのこと。
- ・全国320校、年間6万人の生徒が学校の正規の授業時間内で実施している。年度の最後に実施しているクエストカップ全国大会(31都道府県から4千エントリー)が学びのゴール。
- ・テーマは多様で「地方創生」「起業」「社会課題」などがある。正解はなく、答えは自分でつくる。

#### (3) 探究学習の成果、地域における探究学習

- ・探究学習によって、生徒の非認知能力や学力が伸び、進学実績にも好影響が表れている。
- ・地域の企業と地域の学校が協働して作り出す取組を、静岡県、埼玉県で行っている。

#### (4) 教員の意識変容のために

- ・「先生こそが真に未来をつくることができる」と考え、教員の意識変容をねらいとした研修を開発した。
- ・学校の先生が生徒に対して、主体的・協働的な学びを実践できるようになるため、全国の教育委員会指導主事の学びを支援する研修プログラムを半年間にわたって開講している。

#### (5) アンケートの声

- ・探究学習で学びが変わり、学生・生徒が変わっていくのを感じた。青森でもやってほしい。
- ・こういう「生きた学び」を私も学生時代に受けたかった。私の子どもたちにも経験させたいし、子育てにおいても「引き出す」学びを、教育を考えていきたい。

今年度も、キャリア教育の在り方や大切さ、大人(保護者・教員等)が子どもたちにどのようにかかわるべきなのかを改めて考えることができ、大変充実したフォーラムとなりました。またアンケートにおいても満足度が高く、高評価な感想が多く寄せられ、参加者の今後の活動への意欲を高めることができた有意義な機会となりました。